

変形性膝関節症の手術について

整形外科 医長 土持 兼信

変形性膝関節症とは

関節のクッションである軟骨が、加齢や筋肉量の低下などによりすり減って、痛みが生じる病気です。症状が軽い場合は痛み止めの内服薬や外用薬を使ったり、膝関節内にヒアルロン酸の注射などをします。また大腿四頭筋強化訓練などのリハビリテーションをを行います。このような治療でも治らない場合は手術治療も検討します。



手術

(01) 人工膝関節置換術(全置換・単顆置換)

痛みの原因になっている関節の表面を削り、人工の関節に置き換える手術です。最近はナビゲーション技術が開発され、以前より正確な手術ができるようになりました。関節全体が傷んでいる場合は全置換術を行い、部分的に傷んでいる場合は単顆置換術を行います。単顆置換術は術後の回復が早い、違和感が少ないメリットがあります。





02/ 骨切り術

膝が変形し、アライメント不良(O脚、X脚)になると体重がかかる部分が内側や外側に集中し、半月板や軟骨が損傷していきます。骨のアライメント不良を骨を切って矯正するのが骨切り術です。自分の骨を温存できるため、膝の曲げ伸ばしは術前と変わらず可能で、動きや運動に制限がないというメリットがあります。重労働や膝に負担がかかるスポーツの継続も可能です。





当院では、年齢、変形の程度、痛み、生活の活動性、スポーツ活動の継続など、それぞれに状態に合わせて治療方法を選択していきます。

当院の

人工股関節全置換術における

(THA)

最近のトピックス

整形外科 医師 河野裕介



1.THA (Total Hip Arthroplasty) とは

THAは変形性股関節症や大腿骨頭壊死症、或いは外傷によって傷んで変形した関節を人工の関節に置き換え、痛みを取り除く手術です。確立した手術法ではありますが、インプラントの素材・デザインの進歩やコンピューターによる手術支援技術の登場など、日進月歩の分野です。当院でも常に手術のアップデートに努めています。





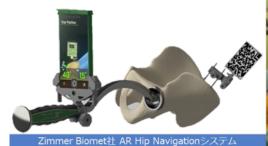


2.当院のTHAの特長〜低侵襲な仰臥位前外側アプローチにより術後動作制限が不要!

当院のTHAの特長の一つは、2016年に導入した仰臥位前外側(ALS)アプローチです。同じTHAでも施設や術者により手術方法は様々で、術後に和式動作などの動作制限を課せられることもありますが、当院のTHAはALSアプローチにより術後の動作制限は基本的に不要です。筋肉を切らない低侵襲手術(MIS)で、術後の機能回復も従来手術より早くなりました。

3.最近のトピックス~コンピューターナビゲーションシステムによる手術支援!

最近のトピックスは、2022年にナビゲーションを導入したことです。3次元術前プランニングに最新のテクノロジーを組み合わせることでより安定して正確なインプラント設置ができるようになっています。 術後の合併症のさらなる低減、より長期間安定した股関節機能の獲得など、様々なメリットが期待できると考えています。





4.股関節の症状で相談したい時は

当院では術前に十分に説明を行い、患者さん、ご家族に納得いただいて手術が受けられるように心がけています。患者さんの年齢や併存症によっては、両側同日手術も可能です。股関節の症状でお困りの方は、かかりつけの先生を通して当院医療連携室や整形外科外来へお問い合わせ下さい。

チーム医療! 医療安全管理部

医療安全管理部は、組織横断的に院内の安全管理を担うため、 院長の直轄機関として設置されています。



【医療安全管理部のメンバー】

医師:3名 医療安全管理者(専従):1名 患者相談窓口担当者:1名 薬剤師:1名

臨床工学技士:2名 看護師:2名 事務員:2名

医療安全管理部で行っていること

安全な医療が提供でき、患者さんやご家族が安心して外来治療や入院治療を受けられるよう活動しています。

- ・全ての職員が「安全文化」について共通認識を持って行動できるよう、啓発・広報・ 教育研修会の実施。
- ・医療が安全に提供されているか、現場の情報収集や実態調査。
- ・患者さんからの相談やご意見に応じるための患者相談窓口の設置。

院内で発生したインシデント・アクシデントは、医療安全管理部で全症例共有し、検討しています。 各診療科・診療協力部門・看護単位、事務部門には、それぞれ1名セーフティマネジャー (医療安全推 進担当者) が配置されています。



わかるまで聞こう話そう伝えよう 令和5年11月19日(日) ~25日(土) は 医療安全推進週間です

医療安全に関する委員会・部会

医療安全管理委員会では、診療部問、看護部門、診療協力部門、事務部門など責任者が出席し、医療 安全に関する全般的事項の報告、審議、承認を行います。医療安全管理委員会の下には、セーフティマ ネジメント部会があり、セーフティマネジャーの中から選出された部員が、4つの多職種チームを結成し、 インシデント・アクシデントの原因分析・検討を行い再発防止に向けた活動を行っています。





医療安全のための職員研修







全職員参加の医療安全研修会(2回/年) 新入職時の医療安全研修 看護職員への研修 医師への実技講習会 コンフリクト研修(説明時などに患者側と医療者側の

認知齟齬を予防するための研修) 日本専門医機構認定 共通講習 (医療安全)

など

患者相談窓口

患者相談窓口では、専従の職員が患者さんやご家族が安心して治療に専念できるよう、病気やケガから 牛じる不安や悩みについての相談に対応しています。



場所:1階Aブースの隣(眼科外来隣) 相談時間:平日 8:30~16:45

対応者:看護師

冬に気を付けたい感染症

感染管理認定看護師 三ノ丸 理江

冬に流行する感染症は【呼吸器感染症】と【感染性胃腸炎】です。どちらも原因微生物はウイルスです。冬になると気温が低下し乾燥するため、ウイルスが好む「低温・低湿度」の環境になります。また、私たちの体温も下がり、寒さなどから抵抗力が低下することも冬にウイルス感染症が流行する理由です。



呼吸器感染症

冬に流行する呼吸器感染症の代表ウイルスは、インフルエンザウイルスです。インフルエンザウイルスは感染した人から周囲の人へ感染します。例年、年末年始にかけて流行しますが、今年度は9月から流行が始まっています。

【感染を予防するには】

- ・流行前にワクチン接種をします。ワクチン接種は感染後、発症する可能性を 低くします。また、発症した場合の重症化防止に効果的です。今年は流行の 始まりが早いため、ワクチン接種開始後、早い時期に接種しましょう。
- 外出後、帰宅したら最初に手を洗います。手についたウイルスを物理的に取り除きましょう。手洗いはインフルエンザウイルスに限らず、その他の感染を予防するための基本です。
- ・流行時期には人ごみを避け、外出する際はマスクを着用します。
- 室内では適度な湿度を保てるようにします。加湿器などを使用して湿度が 50~60%になるように調節しましょう。



感染性胃腸炎

感染性胃腸炎の原因の多くは、ノロウイルスといわれており、ノロウイルスは牡蠣やムール貝といった2枚貝の体内に蓄積されています。生食用に養殖されたものはノロウイルスがいない環境で育てるため生食が可能です。

【感染を予防するには】

- ・生食以外の2枚貝はしっかりと過熱して、ノロウイルスを死滅させてから 食べるようにします。
- ・調理に使用したまな板や包丁などはそのまま次の調理に使用せず、煮沸 消毒を行いウイルスが移るのを防止します。
- ・嘔吐や下痢の症状がある人のお世話をするときはマスクをつけ、お世話をした後は流水と石鹸で手を洗います(ノロウイルスはアルコールが効きません)。





感染を予防するためには、感染症に対して 抵抗力を持つことも大切です。十分な睡眠や、 適度な運動、食事をしっかりとって健康に 過ごしましょう。

小児の在宅支援について

医療支援部 MSW 吉松朋代

当院では、低出生体重や染色体異常・心疾患等で出生する赤ちゃんも多く、退院時に医療的ケア(在宅酸素・経管栄養・人工呼吸器・喀痰吸引等)を必要とする場合があります。

それらのケアを在宅で24時間365日家族だけで対応するには、負担が大きく、退院に関して不安を感じる事が少なくありません。そんな時に少しでも安心して退院ができる様サポートさせて頂いています。





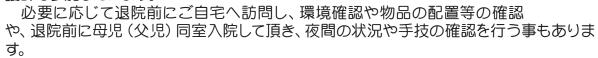
具体的には、退院の目途が立った段階で経管栄養や喀痰吸引の手技(方法)等を看護師からご家族へ説明しながら覚えて頂きます。

必要に応じて主治医よりご家族へ説明の後、身体障害者手帳や小児慢性特定疾病の申請を行い、日常生活用具(痰吸引器・吸入器等)の購入の補助が受けられる様サポートさせて頂きます。

退院後は訪問看護を利用し、医療的ケアや入浴等のサポート・リハビリ・ご家族の休息や きょうだい児対応の際の見守りなどをお願いできます。

また、保健師による見守りや地域の情報提供・相談対応もお願いしています。 状況に応じて相談支援専門員へ情報提供し、児童発達支援(デイケア)等への 導入やヘルパーの利用等も検討・手続きのサポート等をお願いしています。

退院後にそれらのサポートをスムーズに受けられる様、退院の目途が立てば退院前カンファレンスを実施し、医師や看護師・リハビリ担当者等より直接病状等の情報提供を行い・ご家族との顔合わせとサービスの調整を行います。 また、退院後の受診の際にも情報共有が必要な為、カンファレンスには外来看護師も参加しています。



北九州市在住の方は北九州市立総合療育センターの医療的ケア児コーディネーターに退院前カンファレンスに参加して頂き、退院後の療育やサービス利用等の相談にも応じて頂いています。

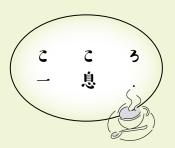
最近では通院が困難な場合等訪問診療をお願いする事も増えてきました。訪問薬局に配薬をお願いする事もあり、退院前カンファレンスには実際にサポート頂ける関係者にできる限り参加頂ける様調整しています。

この様に高齢者の在宅支援と同様に医療的ケアが必要な小児に関しても院内外の関係各所・多職種と連携し、少しでも安心して在宅生活が送れる様サポートさせて頂いています。

また、医療的ケアの必要はなくても低出生体重児 (極低出生体重児・超低出生体重児) で 養育医療を申請された方や、退院後の不安を感じられているご家族へのサポートとして了 承を得た上で地域の保健師や里帰り先の保健師へ情報提供を行い、見守りをお願いしてい ます。

日頃からサポート頂いている関係各所の皆様には本当に感謝しています。 関係各所の方々には色々とご迷惑をおかけしている事があると思いますが、少しでも安心して在宅生活が送れる様今後ともご指導頂きます様お願い致します。





Three good things





これから夜が長くなる季節。夜は、刺激が少なくゆっ くりした気持ちになれますが、それだけにイヤな出来事 を思い出しやすい時間帯でもあります。

寝る前までのすきま時間の5~6分で、できるストレス対 処法があります。

その日にあった良いことを3つ思い出して書き出す 「スリーグッドシングス」と呼ばれる方法です。

良かったことに含むものは、楽しかったこと、できた こと、こころがホッとしたこと、感謝したことなどです。



その日の良かったことを書き出してみると、気持ちが明るくなるという作用が研究で分か っています。頭の中で思い出すだけより、書き出す方が効果は高いと言われています。 今晩寝る前に、1つでも2つでも書き出してみませんか。

臨床心理室 瀬川明美

おしらせ



肩外来始めました

R5.4月から肩関節外来をはじめました。腱板断裂、拘縮肩 や外傷など幅広く診療します。肩痛でお困りの方がいらっ しゃいましたら、ご紹介いただけますと幸いです。

整形外科 蛯原宗大





独立行政法人 〒 806-8501 北九州市八幡西区岸の浦 1 丁目 8 番 1 号地域医療機能推進機構 で 九 州 病 院 TEL (093) 641-5111 (代表) http://kyusyu.jcho.go.jp

